

# 東広島医療センター 呼吸器グループ



## Updated Topics and Report (22<sup>th</sup> issue)

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

東広島医療センターの呼吸器グループは、広島中央医療圏において診療に携わっておられる先生方へ定期的に“**Updated Topics and Report**”をお届けしております。

当グループは地域医療機関の先生方から多くの患者さんをご紹介頂き診療実績を積み上げてまいりました。グループ全体として、先生方や地域住民に信頼していただける医療を今後も提供できるように診療レベルの向上に努めていくとともに、情報発信も行っていきたいと考えております。ご多忙中のところと存じますが、本誌を診療の合間などにお読みいただければ幸いです。

本号は、春の学会シーズンにおける受賞報告、中国新聞での記事掲載について、ならびに『**ロボット (da Vinci) 支援下で心膜を切開し肺静脈を処理した下葉肺癌**』の症例報告です。

2024年7月

### ➤ 第124回日本外科学会において優秀演題賞を受賞

初期研修医2年目の武田尚樹医師による『術前診断に難渋した前縦隔発生の脱分化型脂肪肉腫の1手術例』の発表が日本外科学会で優秀演題として表彰されました。画像上、異なる2つの前縦隔病変があり一方は上大静脈の合併切除も行い切除しました。病理学的には腫瘍内出血の有無以外は同一の組織型で連続性病変と判定された症例でした。



### ➤ 関西胸部外科学会において最優秀賞を受賞

日本胸部外科学会の地方会である関西胸部外科学会で、昨年度専攻医であった久保井里紗医師が

発表した『腹臥位両側アプローチで胸椎椎体前方を合併切除した後縦隔脊索腫の一切除例』が Case Presentation Award 呼吸器部門の最優秀賞を受賞しました。極めてまれな腫瘍に対して整形外科・麻酔科と綿密な協議を重ね、椎体切除の際に損傷リスクが懸念された下行大動脈を保護しつつ安全に切除を施した症例でした。東海、北陸、近畿、中四国地区の大学病院、および名だたる大病院などから42演題がノミネートされましたが、選考委員長から「**ダントツでのトップ評価**」と表彰式でコメントされての受賞でした。**当院は2年連続での同賞受賞**の快挙となりました。



### ➤ 中国新聞に記事が掲載されました

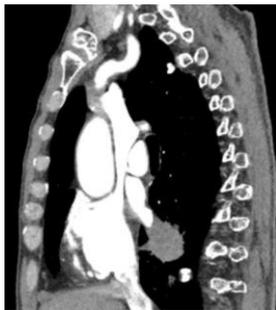
原田呼吸器外科部長が取材を受け、中国新聞の『Doctorに聞こう!』で、気胸に関する記事が掲載されました。当院の気胸センターが2021年度において広島県内で治療実績が最も多かったこともあり、気胸に関する病態および診断や治療を中心とした内容(5月8日)と、読者からの質問に対する回答(5月29日)の2回にわたるものとなりました。



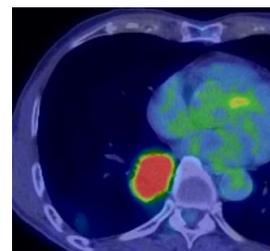
## ▶ ロボット (da Vinci) 支援下で心膜を切開し肺静脈を処理した下葉肺癌

(症例) 80代の男性。健診で右下肺野に浸潤影を指摘され、当院呼吸器内科に紹介となった。

(画像所見) 胸部 CT で右肺下葉に最大径 45mm の腫瘤影を認め、下肺静脈の一部へ浸潤が疑わ

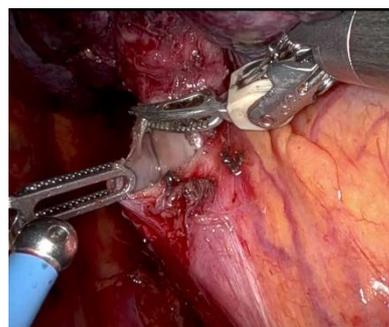


れた (左図)。PET-CT では SUVmax: 10.8 と集積を認めたが (右図)、遠隔転移は認められなかった。気管支鏡検査を行い、細胞診にて腺癌が強く疑われた。



(呼吸器グループカンファレンス) cT2bN0M0 cStageIIA の肺腺癌 (疑い) とし、診断と治療を兼ねた手術を行う方針となった。

(手術所見) 胸腔鏡を挿入し胸腔内を観察したところ、播種性病変はなく、ロボット支援下で手術を行うこととした。下肺靭帯の切離をすすめ下肺静脈の剥離同定を行おうとするも、腫瘍が接



近しており、静脈の尾側では心膜への浸潤が強く疑われた。まず上中葉間、中下葉間を切開し、葉間で下葉に流入する肺動脈を自動縫合器で切離した。再度、下肺静脈への操作に移行し、下肺静脈周囲の心膜を切開し (左図)、心嚢内で下肺静脈を切離することで、腫瘍と心膜を合併切除した。最後に下葉気管支を自動縫合器で離断し、右下葉と心膜が一塊となった切除標本を体外に摘出した。

(病理組織学的所見) 心膜まで腫瘍は浸潤し、下肺静脈においても浸潤が認められた。pT3N0M0 pStageIIB)と診断され、MET Exon 14 Skip が検出された。

(考察) 当院呼吸器外科においては本年 2 月に内視鏡手術支援ロボット「da Vinci (ダ・ヴィンチ)」を用いたロボット支援下手術を開始した (右図)。医師および手術室看護師でロボット手術導入チームを編成 (左下図) し、各個人ならびにチーム全体として数々の研修を受講し、ミーティングやシミュレーションも数か月にわたり繰り返し行い、立ち上げ・実践に至った。現在までに 15



例のロボット支援下手術を行ったが、本例はその中で最も難易度が高い手術であった。拡大された 3D 画像のもと、狭いところでの繊細な鉗子操作が可能であるというロボットの優れた機能が、心膜切開による血管処理という場面において極めて有効であった症例と考えられた。

東広島医療センター呼吸器グループは、最高レベルの医療を提供できるよう、充実したスタッフによる最良の診療を心掛けてまいります。また原則としてご紹介いただいた患者さんは、ご紹介元の先生に逆紹介するよう心がけております。東広島医療センター呼吸器グループに対するご意見・ご不満・ご質問・ご感想、またお知りになりたい情報等ございましたら担当医もしくは地域連携室までご連絡ください (地域連携室 FAX : 082-493-6488)。